週刊 循環経済新聞

H24. 3. 26

第1098号　（第3種郵便物承認）　週刊循環

検定試験のもよう

問を投げかけていく。

社理事長・森浩志氏が、東京都が災害廃棄物を入れ、被災地の早期復興に繋げる」の目標かとを報告した。

宮古市から排出され

サッカー大会など開催

被災地の子どもたちに笑顔

㈳千葉県産業廃棄物協会

㈳千葉県産業廃棄物協会（石井邦夫会長）主催で、3月17日と18日、東日本大震災で被災した、福島県と千葉県の子どもたちを招待し、千葉県や東京都の廃棄物処理施設見学、環境教育、サッカー交流大会が行われた。福島県からは植田サッカースポーツ少年団（いわき市、33人）と会津サントスFC（喜多方市、31人）の2チーム、千葉県からはNPO法人スポーツアカデミー（旭市、28人）の1チームが参加した。㈳福島県産業廃棄物協会青年部が協賛し、交流会では、合計約150人で交流を図った。実際に被災地の子供を招待した事業は全国でもまれだ。

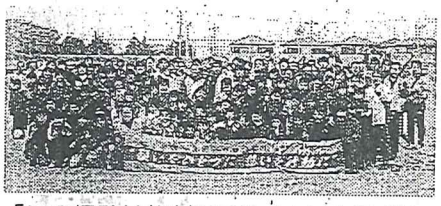
同協会青年部会・女性部会が、「願いをひとつに思いを行動に」のスローガンのもと、復興支援事業、社会的責任、公益事業の一環として企画、震災以降、外で満足に活動することができていない福島県の子どもたちを招待し、外でサッカーをしてもらうよう、福島県サッカー協会に打診した。同じく被災した千葉県旭市の子どもたちも招待し、被災地出身者同士での交流も図った。今回の事業を第一回目とし、今後も同様の事業を継続していくという。

1日目の施設見学では、福島県の子どもたちが高俊興業の東京臨海エコ・プラントとバイオエナジーの発電施設を見学、千葉県の子どもたちがジャパンリサイクルのガス化溶融炉、バイオガス施設を見学した。実際に、昼食時に出たごみを分別し、排出された生ごみをバイオガス発電施設のピットに投入するなど廃棄物処理の工程を学習した。

環境教育では、廃油を使ったろうそく作り、牛乳パックを使ったサッカーボール作りなどを体験した。環境教育終了後は、交流会を開催。同協会からサプライズプレゼントとして、Jリーグ選手のサイン入りチームフラッグの贈呈などを行った。

2日目のサッカー大会では、大会の運営、炊き出しを提供。参加した子どもたちも思う存分サッカーを楽しんだ。

参加した福島県のサッカーチームの代表は「千葉県産業廃棄物協会の方たちには、細かい部分まで非常によくしていただいた。放射能の問題などで、外での活動が制限されていて、子どもたちにとっても久しぶりの試合だった。子どもたちも大変喜んでおり、感謝している」と述べた。



「この経験は絶対に忘れない」と子どもたちは感謝の気持ちを表した

廃油からのろうそく作りを体験しているようす

強いリーダーシップ▽高度なリサイクルを行うスーパーエコタウン事業者が都内にあると▽近くに人家の無い海面埋め立て処分を都が管理▽23区長会での決定、23区清掃一組や多摩市町村による丁寧で計画的な住民説明などがいち早い広域処理開始につながったと述べた。

資源循環型社会の形成を促進するのが目的。応募資格は、愛知県内で補助事業を行おうとする事業者かコンソーシアム（協議会）。募集期間は4月27日まで。

補助事業の対象としては、▽リサイクル関係施設整備事業▽排出抑制関係施設整備事業▽地域ゼロエミッション関係施設等整備事業▽

新刊紹介

水マネジメントにおけるソフトパス・アプローチ

編著＝デイビッド・B・ブルックスほか
監修＝吉村和就
発行＝産調出版

限りある水資源を、70億人に上る地球人口がいかに分かち合うか。本書は、持続可能な社会を築くために必要な水資源管理法とその政策を再構築する1冊だ。

人口増加とともに急増する世界の水需要。大型の浄水場や、どのハ…る対応…限りあ…かに有…うかと…スの概…画手法…論文で…る。

また、…ディー…ソフト。…組みも…

A5…定価2…込)。問…調出版…366…まで。

18